

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



おっぱい
おまんこ
新時代
新編



「ああ、おち○ちんいっぱいっ！…！どんなおしおきされちやうのか
両奈ちやんどキドキしちやうっ！♡」

はぁっ

はぁっ

ぐっぽっ

ぐっぽっ

ぐっぽっ

むっ

むっ



「ご主人様、早く両奈ちゃんに熱々のミルクでおしおきして〜♡」



「ひゃん！あゝゝゝゝ♡」

「ご主人様のあつつあつあつのミルクがこーんなに…
両奈ちゃん幸せ♡」

とろろ

とろろ

はぁ…♡

はぁ…♡

びゅん♡

とろろ

とろろ





「わんわん！ご主人様、いけない両奈わんちゃんに
きつーいおしおき、たくさんしてくささい♡」



「両奈わんちやんの身体は、おっぱいもほっぺも
ぜーんぶご主人様のものです
好きなように使ってください♥」



「はあ〜ん♥ザーメンいっぱい〜♥」

「ご主人様のザーメン美味しい♡
でも両奈わんちゃん、まだまだ
おしおきされ足りないかも♡」





「あん♡ご主人様、両奈ちゃんのおっぱい
もつと乱暴に使って良いんですよ♡」

グッ

リッ

にゅっ

おっ

ぎゅんっ





「そうそう！おち○ちんで両奈ちゃんのだらしない
おっぱいにいっぱいおしおきして〜♥」

おっぱいっ♡

おっぱいっ♡

しっ
しっ
しっ

あっ♡

あっ♡



ズバズバ

ズバズバ

ズバズバ

ズバズバ

「はあ〜ん♥いっぱい出た〜♥」

んは〜♥

んは〜♥

「両奈ちゃんご主人様のザーメンまみれになっっちゃった：幸せ♡」



とろお...♡♡

とろ♡

とろ...♡♡

はぁ...♡

はぁ...♡



「どろ、両備の胸は？小さくたってちのぽくらい挟めるんだから！」

あーん

すいっ

あーん

あほっ



「情けない顔して腰振っちゃって…ほらさっさと射精しちやいなさい！」

「あは！出たでた！」



あっ♡

ズン
ズン
ズン

♡
♡

ズン
ズン

あはっ♡

ズン
ズン

♡
♡
♡
♡

ズン
ズン



「こんなに出して…両備の胸、相当気持ちよかったみたいね」

ど

ろ

...

はぁ

はぁ

びく

と

ふ

どろ



「ほーら、あんた達の大好きな爆乳よ！思う存分楽しみなさい！」

ふふ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん



「ほらほらもっこと腰を振りなごころー」



あはは

んほっ

ゆっっ

あはは
あはは
あはは

あはは
あはは
あはは

あはは

あはは
あはは
あはは

あはは
あはは
あはは

あはは
あはは
あはは

「あはいっすいっ♥」

あはっ♥

あはっ♥

あはっ♥

あはっ♥

あはっ♥

あはっ♥

あはっ♥

あはっ♥



「うわ…忍装束が精液でべとべと…男って本当に爆乳が好きみたいね」



「特別に今回だけは両備が動いてしごいてあげるわ
イかなかつたら承知しないわよ！」



「ごうやあって締めあげて、上下にすっつていれればいいだけでしょ？
簡単じゃない！」





「おっぱい...おっぱい...」

んおっぱい

んおっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい



「ふふん…こんなに射精して…そんなに両備のおっぱいが良かったんだ」

とろろ

はぁ…♡

はぁ…♡

とろろ♡

ぱく♡

だらあ…♡



「くっ…なんで私がこんなこと…」

ズ
ー

わ
〜
…
V
V

にゅ
300

ぬ
300
V
V

ズ
ー
わ
〜
V
V



「ちよっ！何腰振ってんだ！やめろ！」

「うわっ!」



「ううう：酷い臭い：顔にまで：
貴様覚えていろよ：」



ぬる〜…

ふー…

ふー…

ズン

ふー…

ズン

ズン

「なんでそんなに胸に拘るんだ貴様は…」



「ふふふ」



「くっ…相変わらずひどい臭いだ…」



くっ
おっ
あ
ふ
ふっ

くっ
おっ
あ
ふ
ふっ

「ごうやって締めあげればいいんだな？
痛くはないのか？」



「ん…ほんと胸ばかり…
そとうのモノ好きだな貴様は…」



「んはあっ！」





「毎度毎度すごい量だな…体中精液だらけじゃないか…」



「胸でっかいおまんこ...」



「あ…何か、たくさんでいきました…」

んんん

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ

ム
ム
ム
ム

ズッ
ズッ



「すごい量…あ、あの…気持ちよかったでしょうか？」

はーん

とろろお…

はーん

とろろい

とろろい

「今度は挟むのですか?...
私は動かなくて楽ですが...」



あーっ

かきゅ

んんん...

あーっ
ぎゅ
ぎゅ
んんん...



「ん…(おち○ちんのが熱が伝わって…)
なんかへんな感じ…」



「わぁー!」

あゝ

んあ。v

びゅん

ぐんぐん

ぐんぐん

びゅん

ぐんぐん



「胸の中が…精液で満たされてしまいました…
溢れ出たのも…こんなに」

どろろ♡

ひひ

どろろ♡

どろろ♡

ひひ♡



「あ、あの…私一人じゃあこんなにくくさんのお相手…
できないと思うのですが…」

んっ…

ズッ
んっ

んっ…

ぐいっ

ズッ
んっ



「あ…乳首にそんなに押し付けられると…く…くすぐりたいです…」

ぐわんぐわん

んは…

しっしょっしょ

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

「ん…あっ…」



「体中精液だらけ：みなさんに気持ちよくなって
いただけたらよかったです：」

ぬちゅ
ぬっ

ほおっ

ほおっ

とろ
ろっ

ぐ
ぐっ

ぐらっ
ぐらっ



「く：貴様：こんな真似をして
ただで済むと思うなよ：」



ぶくん♡

んん



「くう…なんだこの酷い臭い…」

しゅわん
しゅわん
しゅわん

ぬるぬる
ぬるぬる
ぬるぬる

しゅわん
しゅわん
しゅわん



「くっ…なんで私が貴様の性処理の相手をしなければならぬんだ…」

くっ♡♡♡♡♡

にゅる♡♡

グー♡♡♡♡♡

♡♡



「ん…いつまで腰を振っているつもりだ
早く済ませてそこをどける！」



「んん……」

んんん
んんん
んんん

んんん
んんん

んんん

んんん

んんん
んんん

んんん
んんん

んんん



「うう…：すごい量…
もう満足したろうう…：早くそこをどけー！」



「ドレスまで着せておいてやる」といえばコレか…」

「ん：そんなに激しく突くな…
胸が壊れてしまう…」





「ん……！」



「こんなに出して…せつかくのドレスが
台無しじゃないか…」

どろお…♡♡

♡♡♡

どろお♡

ぬる…♡♡